

普通温州の肥大は平年並み、成熟は「大津 4 号」が平年並み、「青島温州」が平年並み～やや早い傾向です。  
完全着色した果実から減酸、食味を確認し、順次収穫しましょう！

## 1 令和 7 年 11 月の気象

令和 7 年 11 月の半旬別の気象を表 1 に示した。平均気温は第 3、4、6 半旬を除いて平年並みに推移した。第 3、4 半旬は平年より低く、第 6 半旬は平年より高かった。月平均気温は 13.5℃で、前年より 1.5℃低く、平年並みであった。

降水量は第 2 半旬のみ平年並みで、それ以外は平年よりかなり少なかった。月合計は 29mm で平年の 20%、前年の 21%であり、乾燥傾向であった。

日照時間は第 1～3 半旬で平年より少なく、第 5、6 半旬で平年より多かった。月合計は 150 時間で平年の 103%、前年の 108%であった。

表 1 令和 7 年 11 月の気象 (アメダス館山測候所)

半旬	平均気温 (℃)			降水量 (mm)			日照時間 (hr)		
	本年	平年	前年	本年	平年	前年	本年	平年	前年
1	16.2	15.7	18.6	0.0	24.2	55.0	23	25	23
2	15.1	15.0	14.2	24.0	22.7	7.5	20	25	17
3	12.5	14.2	16.3	4.0	24.1	29.5	18	24	17
4	12.4	13.2	14.2	0.0	26.0	14.5	24	24	13
5	12.1	12.3	11.3	0.0	26.1	0.0	27	24	30
6	12.9	11.6	15.2	1.0	23.3	33.5	38	24	39
平均／計	13.5	13.7	15.0	29.0	146.4	140.0	150	146	139

注 1) 平均／計：平均気温 (℃) は平均値、降水量 (mm) 及び日照時間 (hr) は合計値を示す

2) 表の数値は表示単位未満を四捨五入したため、合計値を内訳が一致しない場合がある

## 2 果実の生育

12 月 1、2 日における調査園の果実生育状況を表 2 に示した。

3 地区の平均を平年及び前年と比較すると、横径は「大津 4 号」が 7.5cm で平年比 100%、前年比 104%であった。「青島温州」が 7.6cm で平年比 103%、前年比 101%であった。両品種とも平年並みであった。地区別では、三芳地区は「大津 4 号」は平年、前年並みで、「青島温州」は平年、前年よりやや小さかった。千倉地区は「大津 4 号」は平年、前年並みで、「青島温州」は平年、前年より大きかった。暖地園研では「大津 4 号」は平年並み、前年よりやや大きく、「青島温州」は平年、前年並みであった。

縦径は「大津 4 号」が 4.9cm で平年比 98%、前年比 104%であった。「青島温州」が 4.9cm で、平年、前年比ともに 98%であった。両品種共にほぼ平年並みであった。地区別では、三芳地区は「大津 4 号」は平年、前年並みで、「青島温州」は平年、前年よりやや小さかった。千倉地区は「大津 4 号」はほぼ平年、前年並みで、「青島温州」は平年並み、前年よりやや大きかった。暖地園研は両品種ともほぼ平年、前年並みであった。

果形指数は 3 地区平均して「大津 4 号」、「青島温州」共に 1.5 で、両品種共に平年、前年比 100%、扁平傾向であった。

表2 果実の生育（令和7年12月1、2日）

品 種	調査地	横 径(cm)			縦 径(cm)			果形指数		
		本年	平年	前年	本年	平年	前年	本年	平年	前年
大津4号	三芳地区	7.3	7.3	7.2	4.9	5.0	4.9	1.5	1.5	1.5
	千倉地区	7.4	7.4	7.2	4.6	4.8	4.5	1.6	1.5	1.6
	暖地園研	7.7	7.7	7.3	5.1	5.1	4.8	1.5	1.5	1.5
	平 均	7.5	7.5	7.2	4.9	5.0	4.7	1.5	1.5	1.5
青島温州	三芳地区	7.2	7.4	7.7	4.7	5.1	5.1	1.5	1.5	1.5
	千倉地区	7.8	7.3	6.9	4.9	4.9	4.4	1.6	1.5	1.6
	暖地園研	7.7	7.6	7.9	5.2	5.1	5.4	1.5	1.5	1.5
	平 均	7.6	7.4	7.5	4.9	5.0	5.0	1.5	1.5	1.5

注1) 各地点の各品種の値は40果の平均値（三芳地区の大津4号は1果腐敗のため39果）

また、枝折れ、落果等により調査果実を変更

2) 果形指数は、横径／縦径

### 3 普通温州の果実品質

12月1、2日調査時の果実品質を表3に示した。

着色程度は「大津4号」が3地区平均で8.4であった。三芳地区は平年並み、前年よりやや高く、千倉地区は平年よりやや高く、前年より高かった。暖地園研は平年並みで前年より高かった。「青島温州」が3地区平均で8.2であった。三芳地区は平年及び前年より高く、千倉地区はほぼ平年、前年並みであった。暖地園研は平年並みで、前年より高かった。

糖度は「大津4号」が3地区平均で10.5であった。三芳地区は平年、前年並みで、千倉地区、暖地園研は平年、前年よりやや高かった。「青島温州」では3地区平均で9.9であった。三芳地区、暖地園研は平年、前年より高く、千倉地区は平年よりやや低く、前年並みであった。

酸度は「大津4号」が3地区平均で0.98であった。三芳地区は平年よりやや低く、前年並み、千倉地区、暖地園研は、平年、前年より高かった。「青島温州」が3地区平均で0.89であった。三芳地区は平年より低く、前年並みであった。千倉地区は平年並み、前年より低かった。暖地園研は平年よりやや高く、前年より高かった。

甘味比は「大津4号」が3地区平均で11.1であった。三芳地区は平年、前年より高く、千倉地区は平年並み、前年より低かった。暖地園研は平年及び前年より低かった。「青島温州」では3地区平均で11.7であった。三芳地区は平年、前年より高く、千倉地区では平年よりやや低く、前年より高かった。暖地園研は平年並み、前年より低かった。

果肉歩合は3地区平均で「大津4号」が77.6、「青島温州」が77.6であった。両品種とも平年より高く、前年並みであった。

表3 普通温州「大津4号」及び「青島温州」の果実品質（令和7年12月1、2日）

品 種	調査地	着色程度 (0～10)			糖 度 (° Brix)			酸 度 (g/100ml)			甘味比			果肉歩合 (%)		
		本年	平年	前年	本年	平年	前年	本年	平年	前年	本年	平年	前年	本年	平年	前年
大津4号	三芳地区	8.3	8.1	7.8	10.1	10.1	9.9	0.81	0.88	0.86	12.7	11.7	12.0	76.9	75.9	77.6
	千倉地区	9.1	8.7	8.4	10.8	10.3	10.1	1.06	0.96	0.95	10.3	10.8	11.1	76.9	75.8	76.7
	暖地園研	8.0	8.3	7.2	10.7	10.2	10.1	1.06	0.90	0.73	10.4	11.6	13.9	79.0	76.1	79.3
	平 均	8.4	8.4	7.8	10.5	10.2	10.0	0.98	0.92	0.85	11.1	11.4	12.3	77.6	75.9	77.9
青島温州	三芳地区	9.2	7.6	7.0	10.2	9.3	9.4	0.76	0.93	0.79	13.9	10.2	12.4	80.6	75.0	80.8
	千倉地区	8.2	8.1	7.8	9.1	9.7	9.0	0.96	0.95	1.12	9.9	10.5	8.8	75.9	74.3	77.1
	暖地園研	7.4	7.8	5.6	10.5	9.7	9.4	0.96	0.88	0.74	11.3	11.2	12.8	76.1	75.5	76.7
	平 均	8.2	7.9	6.8	9.9	9.5	9.3	0.89	0.92	0.89	11.7	10.6	11.3	77.6	74.9	78.2

注) 平年値は平成7年～令和6年の30年間の平均値

甘味比＝糖度/酸度、果肉歩合＝（果肉重/1果重）×100

## 4 12月～3月の栽培管理

### （1）普通温州の収穫・予措

普通温州では果実の着色が8分程度の場合、貯蔵中にほぼ完全着色するが、濃厚な橙色とはならず、初期の減量が完全着色果に比べ大きくなる。また、完全着色果に比べ糖含量が低いので、高品質の果実として出荷できない。そのため、まずは全体の約半数の果実（完全着色果のみ）を収穫する。さらにそこから10日後に、8分着色以上のものを収穫する。

収穫時についた傷や虫害による傷は、腐敗の原因となることが多いので、必ず手袋をはめ、先の丸い採果鉋を用いて収穫し、果実表面を確認する。採収容器は肩から掛ける袋か、かごを用いる。

収穫直後の果実は果皮の水分が多いので、コンテナに果実を7分目ほど入れ、風通しのいい日陰に10～15日置く予措を行うと、果実の重量が3%程度減少して果皮の活性が抑制され、貯蔵中における果汁成分の消耗が少なくなる効果がある。また、果皮がしなやかになり、選果や出荷時の傷果の発生予防になる。

### （2）病害虫の防除

青かび病等の予防には、収穫前にトップジンMゾル（2,000倍液）を散布する。

ミカンハダニ、カイガラムシの防除は2月下旬～3月上旬にマシン油乳剤（97%）60倍液を散布する。厳寒期を避け、晴天が続く暖かい日に実施する。また、樹勢の弱い樹や台風等の被害で著しく落葉した樹では、散布を控える。

※農薬の登録内容は変更になる場合があるため、農薬使用の際は最新情報を確認する。

### （3）防寒対策

気象情報に注意し、適切な防寒・低温対策をとる。樹体を強い寒風から守るため、防風垣や防風ネットを設置する。斜面下部など冷気のたまりやすい場所の防風垣は下枝を切り冷気を逃がす。

また、果実は寒害によるす上がりの発生等により、食味が低下するため、収穫適期を迎えた果実は寒さを受ける前に収穫する。

なお、表の数値は表示単位未満を四捨五入したため、合計値と内訳の計は一致しない場合がある。

《 生育情報の発行元 》 千葉県農林水産部生産振興課

《 生育情報の問合せ先 》 千葉県農林総合研究センター 暖地園芸研究所 特産果樹研究室

電話 0470-22-2961

※果樹の生育情報は「ちばの農林水産業」の「生育情報」でも御覧いただけます。

<http://www.pref.chiba.lg.jp/seisan/seiiku/index.html>